

みずほCustomer Desk Report 2022/12/05 号 (As of 2022/12/02)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	135.55
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	135.18	1.0526	142.31	1.2245	0.6809
SYD-NY High	135.98	1.0545	142.44	1.2300	0.6836
SYD-NY Low	133.62	1.0430	140.79	1.2137	0.6743
NY 5:00 PM	134.34	1.0541	141.53	1.2293	0.6794
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	34,429.88	34.87	日本2年債	▲0.0300%	0.0000%
NASDAQ	11,461.50	▲ 20.95	日本10年債	0.2500%	0.0000%
S&P	4,071.70	▲ 4.87	米国2年債	4.2821%	0.0483%
日経平均	27,777.90	▲ 448.18	米国5年債	3.6571%	▲0.0082%
TOPIX	1,953.98	▲ 32.48	米国10年債	3.4898%	▲0.0187%
シカゴ日経先物	27,705.00	▲ 305.00	独10年債	1.8530%	0.0320%
ロンドンFT	7,556.23	▲ 2.26	英10年債	3.1450%	0.0465%
DAX	14,529.39	39.09	豪10年債	3.3950%	▲0.0990%
ハンセン指数	18,675.35	▲ 61.09	USDJPY 1M Vol	13.76%	▲0.63%
上海総合	3,156.14	▲ 9.33	USDJPY 3M Vol	12.59%	▲0.23%
NY金	1,809.60	▲ 5.60	USDJPY 6M Vol	11.79%	▲0.16%
WTI	79.98	▲ 1.24	USDJPY 1M 25RR	▲1.33%	Yen Call Over
CRB指数	276.69	▲ 2.78	EURJPY 3M Vol	11.61%	▲0.29%
ドルインデックス	104.55	▲ 0.18	EURJPY 6M Vol	11.40%	▲0.21%

東京	東京時間のドル円は135.18レベルでオープン。仲値にかけてドル買いの流れから一時135.59まで上昇するも、前日(12/1)に発表された米経済指標の低調な内容から米金利低下を受けてドル円も軟調な推移が継続し、135.01まで下落し安値圏の135.06レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、135.06レベルでオープン。前日の流れを引き継ぎドル安の展開。一時133.62まで売られるが、米雇用統計の発表を控えてのポジション調整か134.05レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は135円台前半でスタート。東京の仲値にかけて135.59まで買い戻される場面もあったが、ドル円の買いは長続きしなかった。日銀の田村審議員が新聞のインタビューで金融政策の枠組みや物価目標の点検・検証が適当と述べたことが意識される中、その後も上値重い展開が続く。欧州勢参入後に心理的節目の135円を下抜けるとクロス円の売りや米金利低下もあいまって、下げが加速し一時133.62まで下落。早朝は米雇用統計の発表を控え、買い戻しが入り、134.05レベルでNYオープン。朝方の米11月雇用統計では非農業部門雇用者数や平均時給が予想を上回った結果、ドル買い・米金利上昇で反応し、一時135.98まで急上昇。しかし、市場の米利上げペースの減速期待を抑制するほどの結果にはならず、米株高・米債券高・ドル安の流れが再開。午後はダウ平均がプラス圏に回復し、米長期金利が3.5%を下抜ける中、ドル円は雇用統計発表後の上昇分をほぼ吐き出し、結局、134.34レベルでクロス。一方、海外市場のユーロドルは1.05レベルで底堅く推移し、1.0539レベルでNYオープン。朝方は米雇用統計の結果を受けて1.0430まで下落。しかし、ドルが買い戻される流れは長続きせず、午後には1.05レベルでしっかり、結局、朝方の下落分は全て巻き戻され、結局、1.0541レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:永野・逸見

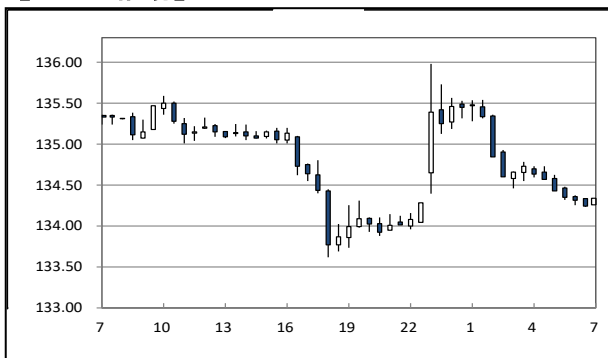
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
12月2日	19:00	欧 PPI(前月比/前年比)	10月 -2.9%/30.8%	-2%/31.7%
	22:30	米 非農業部門雇用者数変化	11月 263k	200k
	22:30	米 失業率	11月 3.7%	3.7%
	22:30	米 平均時給(前月比/前年比)	11月 0.6%/5.1%	0.3%/4.6%

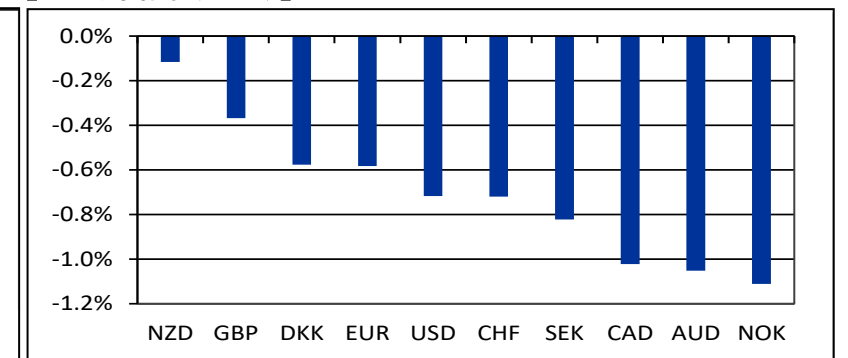
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
12月5日	19:00	欧 小売売上高(前月比)	10月 -1.7%	0.4%
12月6日	00:00	米 製造業受注(前月比)	10月 0.7%	0.3%
	00:00	米 製造業受注(除輸送)	10月 -	-0.1%
	00:00	米 耐久財受注(前月比)・確報	10月 1.0%	1.0%
	00:00	米 耐久財受注(除輸送用機器)・確報	10月 0.5%	0.5%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	133.00-136.00	1.0450-1.0650	140.50-143.50

【マーケット・インプレッション】

昨日のドル円は値動きが激しかったものの、5日連続の続落。アジア時間帯は135~135.6の小幅なレンジ推移。欧州時間帯に入ると、複数のFRB高官から利上げペース減速の発言が出てきていることに加え、複数の日銀審議委員が今後の金融緩和修正の可能性示唆もあり、雇用統計前のポジション調整も入ってか、3か月ぶりの安値を更新し、一時133.62まで下落。11月の雇用統計は非農業部門雇用者数が+26.3万人と市場予想+20万人を上回り、平均時給も前年比+5.1%と強い内容となったことから10年債利回りが急騰し、ドル円も136円近辺まで上昇。しかし、労働市場の強さのピークを示しているとの思惑から上昇が一服し、その後下落して134.38で引けた。本日レンジ推移を予想する。本日複数の米経済指標を控えるものの、13-14日のFOMC前にブラックアウト期間に入り、FRB高官からの発言がない中、方向感の乏しい展開となるものと思料。